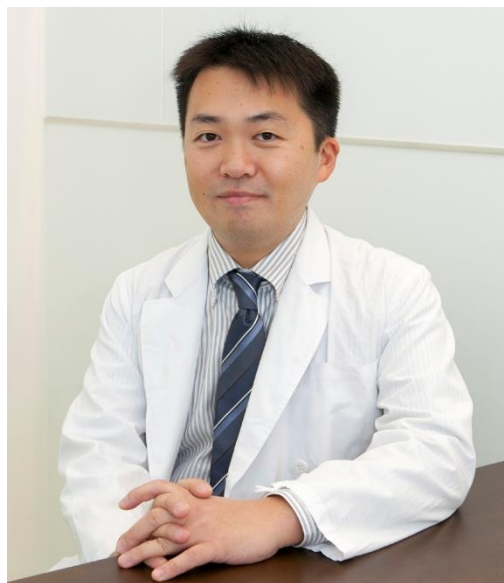




医療法人社団
志友会

東京ベイサイドクリニック

ヤゴ 矢後
ヒロシ 尋志 院長



大型商業施設の3階にクリニックを構える「東京ベイサイドクリニック」。矢後尋志院長は、痛みを感じない内視鏡検査を得意としている。効果的な静脈麻酔と熟練したカメラの操作技術によって胃や大腸にカメラが入る痛みを感じさせずに検査を終えることができるのだ。

ほかにも、大腸カメラの前処置で下剤を飲まずに短時間で検査を完了できるため、日々多くの患者が内視鏡検査を目的にやってくる。商業施設内にあるため、買い物帰りに利用できたり、土日祝日診療だったり、通いやすいもの嬉しい。

「検査中の苦痛だけでなく、検査準備の負担も軽減していきたい」と話す矢後院長。

とにかく患者の苦痛をなくした検査を行い、病気の早期発見・治療に尽力したいと願っている矢後院長にじっくりと話を聞いた。

取材日：2015年7月17日

下剤を飲まない・苦痛のない内視鏡検査

—内視鏡検査に力を入れているそうですね。

内視鏡というと「痛く、苦しい」というイメージが強いかと思います。そのため、積極的に検査をお受けいただくことが難しいという課題があるのです。そこで当院では、痛みを感じない内視鏡検査をご提供しています。熟練した挿入技術と効果的な静脈麻酔で眠ったまま検査が終了するため、痛みや苦しさを感ずる事なく検査が受けられるのです。また、大腸カメラ前に飲む約2Lの下剤も、検査を受ける苦痛の大きな要因の一つです。当院ならば眠っている胃カメラ検査中に下剤も飲み終わっているため、その苦痛も感ずることはありません。こういった内視鏡検査を実施している医療機関は全国的にもまだ少なく、気が付いたら検査や処置が終わっていることに驚かれる患者さんが多いですね。何より患者さんに苦痛を与えない内視鏡検査を行うことで、病気の早期発見・治療に寄与していきたいと思っています。

—内視鏡を専門的に学ばれてきた理由は何ですか？

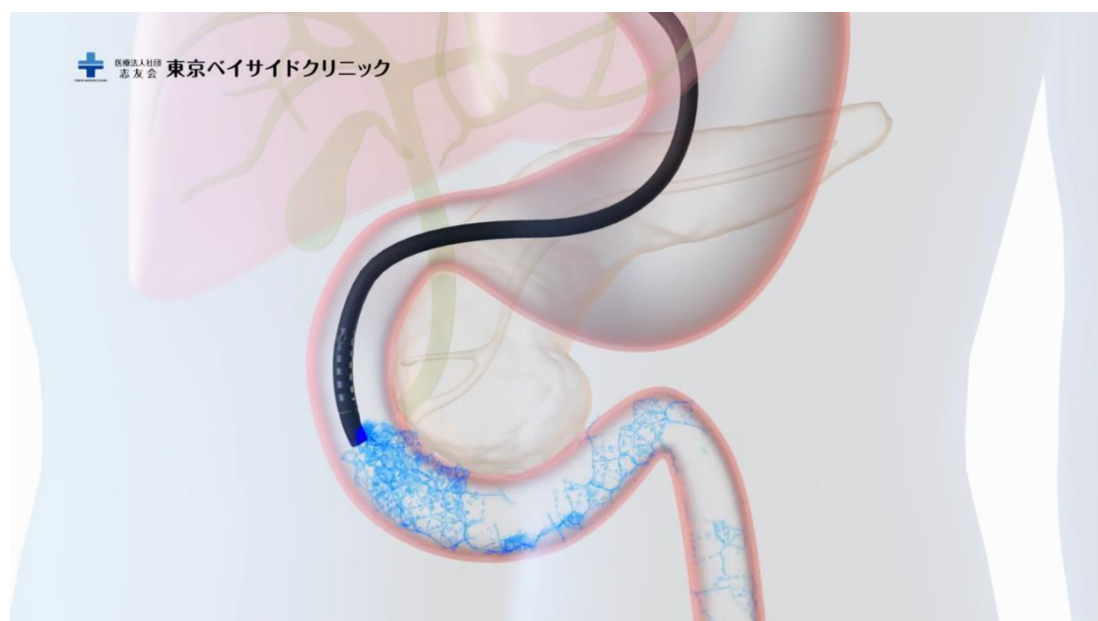
私はテレビゲームが大好きな少年時代を過ごし、はじめて胃カメラが映し出す画像をモニターで見た時に、なんだかテレビゲームに似ているなと感じて興味を持ちました(笑)。もちろん、検査をゲーム感覚で行うことは決してありませんが。モニターを見ながら内視鏡を操作していく中で、いかに時間を短縮するか、痛みを感じさせないための工夫、より正確な検査をするための技術の研鑽……そうして、患者さんの負担を少しでも軽減するための攻略法を日々考えながら検査をしています。そういった工夫を重ねるうちに、通常は両手で行う処置を片手でできるようになりました。両手で処置を行うと、どうしてもカメラから手が離れてしまい局部の画像を映し出すことが難しくなってしまいますが、片手で処置を行うことでもう片方の手でカメラをしっかりと固定できますから、より精度の高い処置を効率的に行うことができるのです。

—下剤を飲まず早い大腸カメラはまだ全国でも珍しいそうですね。

調べ得た限り、他に関東で2~3件、関西で1件、九州で1件ほどしか処置を受けられません。当院のように土日祝日も実施している所は珍しいと思います。当院では日々4~5名、月間で80名以上の方がこの検査法で胃腸検診を受けています。もちろん通常通り下剤を飲む方法も、多少は時間を要しますが可能です。

—どのような方が下剤を飲まず早い大腸内視鏡を受けていますか？

大腸カメラ前の2Lの下剤内服を負担に感じる方は予想以上に多く、以前他院で通常の下剤を飲む大腸カメラを受け、下剤の味や臭いが嫌で全部飲み切れなかったり、嘔吐してしまった方などがかなり遠方から来院されることもあります。下剤を飲み切れても、その後の排便が頻繁で肛門に大きな負担を感じていた方にも、この方法で行うと排便がまとまり回数が少なくなるため、次回も殆どの方が同じ方法を希望されます。それに加え、この方法で処置を行うと検査も含めて全体で約1~2時間、所要時間が短縮されますので普段お忙しい方にもお勧めです。



診療の責任と患者への想いを再確認できる開業医の仕事

—先生が医師をめざされたきっかけは？

私は、医師家系に生まれ育ちました。

幼い頃は医師になろうと強く思ってはなかったのですが、自分の将来に本気で向き合った時に、父のような消化器外科医になりたいと感じたのです。現在は消化器内科がメインですが、全身麻酔の開腹手術を数多く経験したことから、当院では日帰り手術も行っています。日頃、内視鏡検査で用いる静脈麻酔も安心してお受けいただけます。

—なぜ、当商業施設内での開業を決められたのですか？



私は、勤務医時代に知り合った大西先生を尊敬しています。大西先生が院長を務める「ららぽーと横浜クリニック」は今や日本を代表する内視鏡クリニックと言われ、業者に偶然この場所での開業を勧められた時、同じショッピングモールに入っていることが大きな決め手になりました。開業して1年半ほどが経ちますが、いつもたくさんの方で賑わっていて、多くの患者さ

んが通いやすいこの場所で開業してよかったと感じています。施設内のお客さんや、店舗のスタッフさんもよく来院してくださります。開業医は強い責任感を持って患者さんのご要望にお応えせねばなりません。それは、非常にやりがいのあることです。検査一つを取っても、責任の重みや患者さんへの思い入れも異なり、検査や治療から良好な結果が得られた時の喜びもひとしおですね。

—土日祝日も診療しているのですね。

ショッピングモール内のクリニックですから、土日祝日の診療は必要不可欠だと思いました。私は仕事が趣味みたいなものなので、全く苦ではありませんが、実は私は小さい4人の子どもの父親なのです。休日もなかなか一緒に過ごす時間が取れずに申し訳ないと思っていましたが、先日小学4年生の長女の夢を聞いたところ、なんと「医師」と答えてくれて、私の仕事を好きでいてくれるのだと非常に嬉しかったです。これからも子ども達の目標になれるよう開業医の仕事を頑張りたいと思います。



苦痛なく短時間で早期発見できる検査技術を広めたい

—診療の際に気を付けていることは何ですか？



当院には、風邪や胃腸炎などの患者さんも多くご来院されますが、内視鏡検査などの定期検診を受ける患者さんがほとんどです。病気の早期発見・治療を目的とした定期検診ですから、当然、疾患を持たない健康な方が対象ですよね。そんな患者さんが苦痛の大きい検査の麻酔によって来院時より具合が悪くなっては元も子もありません。私は、検査をお受

けいただく前よりも元気な状態でお帰りいただくため、痛みを感じないように麻酔を用いること、その麻酔にもこだわった検査をご提供していきます。麻酔は、お酒と同じように気持ちよく酔える方もいれば、具合が悪くなったり、後に残ってしまう方もいます。これまで数多くの経験から、麻酔による辛さを与えないよう気を付けています。

—検査や症状、治療の内容についてはどのようにご説明していますか？

イラスト入りの資料をお見せしながらご説明しています。例えば、どうして胃液が出るのか、食べ物が消化されるメカニズムなど、胃のイラストを傾けたり逆さにしてイメージが湧きやすいようにお話ししています。そうすることでどのように病気につながっていくのかステップを追ってご理解いただけます。資料はそのままお渡しし、ご自宅でも見返していただけます。また、当院では通常の電子カルテではなく手書きのカルテを採用しています。電子カルテだと目線がモニターに向いてしまい、患者さんの顔を見てお話しすることができないのです。ゆっくりと手書きしながら、患者さんと向き合って診療していきたい。それが私のこだわりです。

—最後に、今後の展望をお聞かせください。

日本の内視鏡検査は、世界的にも非常にリードしている技術と言えます。そのため、海外の方々に日本の検査技術をお受けいただくための医療観光は、国をあげて推奨されている文化なのです。千葉県は、大型テーマパークや商業施設など、観光資源が非常に豊富な場所。私は、その観光資源と合わせて当院の内視鏡検査を世界中の患者さんにお受けいただきたいと考えています。現在でも、1カ月に数名、海外からも患者さんが来院くださっているのですよ。当院は年内に法人化の予定であり、将来的にはクリニックの拡大やコールセンターの導入を考えています。そうして、少しでも多くの患者さんに当院の内視鏡検査を知っていただきたいです。全国的にも少ない、苦痛なく下剤を飲まない胃腸内視鏡検査ですから、もっともっと広まっていく技術になってほしいと願っています。そのために当院が寄与できるならば、出来るかぎりのことは力を尽くしていきたいです。